

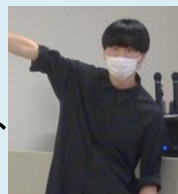


2025年3月号
発行:二輪草センター

二輪草だより



冬休みキッズスクール終了報告



令和7年 1月6日・7日 冬休みキッズスクールを開催しました。

長期休み明けで風邪やインフルエンザなどが流行している中、両日とも欠席なく、各日15名、計30名のこども達が元気に参加してくれました。

今回の特別授業は救急科 滝口 僚也先生による『救急科のお仕事』。最初にドクターヘリの見学をさせていただきました。初めて見るドクターヘリにこどもたちだけではなく、学生も職員も大人まで大興奮！テレビの中でしか見たことのなかった光景を間近で見ることで、こどもたちは興味津々でした。

見学後は救急時の対応や実際にAEDを使用しての心肺蘇生の体験をするなど、子供たちにとって大変貴重な経験になったことと思います。

工作では、ドクターヘリにちなみ、『キッズコプター』を作りました。厚紙を切り抜いたり、少し難しい工程はあったものの、個性あふれる素敵な作品が揃いました。完成したコプターで、友達同士でプロペラをより遠くに飛ばす方法を研究？するなど、工夫して遊ぶ姿が印象的でした。

学食で昼食を食べた後は、お待ちかねの大好きな体育館での活動。グループ対抗で学生さんが考案してくれた障害物競争や大縄跳びをしたり、鬼ごっこをしたりと体をたくさん動かしました。

おやつはクレープメーカーを使用し、クレープ作りに挑戦！クレープを作ることが初めての子もたくさんいましたが、みんな破けないように慎重・・・に上手に焼き、トッピングをして完成！

頑張った作ったクレープを頬張って『おいしい～♪』と満面の笑顔のこどもたちを見て、大人がほっこりしました。

今回もたくさんの方にご協力いただき、無事に2日間のキッズスクールを終えることができました。開催にあたり年末年始のお忙しい中、9名の学生ボランティアさんが参加して下さい、事前の準備や後片付けを含めてお手伝い頂けたこと、こども達と楽しく過ごして頂いたことに心から感謝いたします。

また、ご多忙中にも関わらずお時間をいただいた救急科の滝口 僚也先生、救急のスタッフの皆様、藤井 智子教授をはじめ、いつも快く開催場所をお貸し下さる看護学講座の諸先生方、各部署の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

キッズスクールでこれからもこどもたちが楽しい時間を過ごすことができるよう、職員一同思案をしてまいりますので、今後とも二輪草センターの活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



病児・病後児保育室、バックアップナース、問い合わせ・カウンセリング相談 【2月20日～3月19日までの利用状況】

病児・病後児保育室	依頼回数	8 回	利用回数	7 回
バックアップナース	依頼回数	15 回	稼働回数	14 回
問い合わせ数				5 回
カウンセリング相談				1 回

第43回 二輪草セミナー 実施報告

看護職キャリア支援 職場適応担当 平塚 志保

二輪草セミナーは、一部を看護職キャリアセンターとの共催事業（学生と看護職のセミナー）として実施していましたが、今年度より二輪草センター独自の事業となりました。今年度は、2月4日に会場とライブ配信のハイブリット方式で行い、47名の参加（会場：17名、Zoom：30名）がありました。

WLBの視点を少し変え、忙しくても子どもと過ごす良質な時間を作るという観点から「大人が変わると子どもも変わるー親子の関係性を育む前向き子育てー」と題し、札幌医科大学保健医療学部看護学科澤田いずみ先生にご講演いただきました。以下、エッセンスを簡単にご紹介いたします。



先生が理事をされているトリプルPとは、Positive Parenting Programの略で、オーストラリアで開発された子育て支援プログラムです。トリプルPでは5つの原則とそれに対応する17の技術があります。技術は、具体的で親がこうすれば良いというのが分かり、日常の些細なことを積み重ねることで子どもが変わることが実感できるものです。

親は子どもに対して、子どもの行動に対して、やって当たり前、できて当たり前という意識を持ちがちです。【子どもをほめる】技術では、①もっと増えてほしい行動について、②描写的に、③心から ほめるとともに、④「…しなかった」ではなく「…できた」ことを伝えることで、特定の行動を促す効果があります。

【ルールを作る】技術では、その場で子どもに注意するのではなく、事前にルールを決めることで問題が生じることを避けます。言葉で表現できるようになる3歳ぐらいのお子さんから可能で、家族会議などで子どもと話し合い、家族みんなが守ることが重要です。ポイントは、「…しない」ではなく「…する」というルールの設定で、親が肯定的な行動を発想・設定すること自体が前向き子育ての考え方です。

【はっきり穏やかな指示を与える】技術では、指示をするときに、①自分がしていることを止めて子どものそばに行き、②子どもと視線を合わせ指示し、③5～10秒待ち、④できたらほめる という対応をします。

最後に、【自分の子どもへの期待を省みる】では、子どもに対して無理な期待や高いものを求めることで挫折の機会につながり得ることから、子どもがうまくいかない時、ルールがうまく守られない時は、親が期待するものが子どもに合っているのか点検することが必要になります。

チャットを含めた質疑では、子どもが他人の気持ちを理解するためには、まず子どもの気持ちを親が言語化し、自分の気持ちを理解してもらったり大事にしてもらう体験をすることが大事であること、ルールを決めるときにも自分だけではなく周りがどう感じるかを考えられるようにすることなど助言いただきました。大人と同じ完成度にできないとやらないお子さんへの対応については、親の期待を省みるという視点で振り返るなど参加者ご自身が考える力を身に着けられていました。明日の朝は、子どもを優しく起こして10秒待ってみようと思ったなどの感想もありました。

ご講演の中では、先生ご自身がご家庭の中で、10秒待ったら笑顔で朝を迎えられた体験、スマートフォン使用のルールの話し合い、お子さんが学童保育でけんかのしないためのルールを作成したことなど多くの体験談をお話いただきました。

自分たちのお子さんへの関わりを振り返り、すぐに実行できる多くのヒントをいただきました。子育てのみならず、職場のなかでも応用できる内容が盛りだくさんでした。札幌から来校いただきましたこと、多くの父母にエールを送ってくださいましたことにお礼申し上げます。



【お問い合わせ先】 旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249
開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>

